0319日本災害情報学会大会

コロナ災害と気象災害の類似性

水野一成　近藤勢津子　吉良文夫
（NTTドコモ　モバイル社会研究所）

目的

コロナ災害と気象災害の類似性を検討。仮に類似性が認められるのであれば、
共通の特性は何か、調査を通じ解明する

分析の流れ

コロナ災害と気象災害の類似性を検討するため「リテラシー」「備え・対策」を軸に分析を行う

①コロナ・気象（防災）に関するリテラシー（用語の理解）を4件法で4問聞き、得点化を行う。得点上位と下位で分けを行い、「両方高い、一方だけが高い、両方低い」グループを作成する。

②①で作成したグループを目的変数とし、ライフスタイル等を説明変数と定め、数量化理論第Ⅱ類で分析を行い特性を明らかにする。

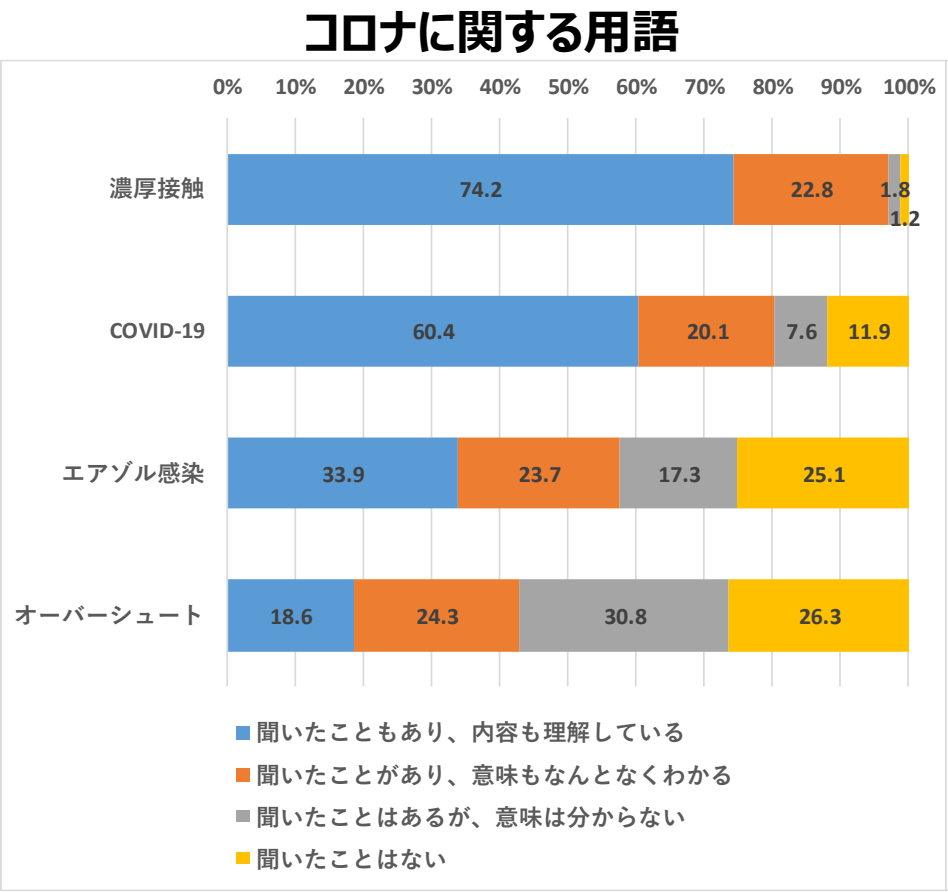
③①②同様の手順で、コロナ・気象災害への備え（対策）についても分析を行う

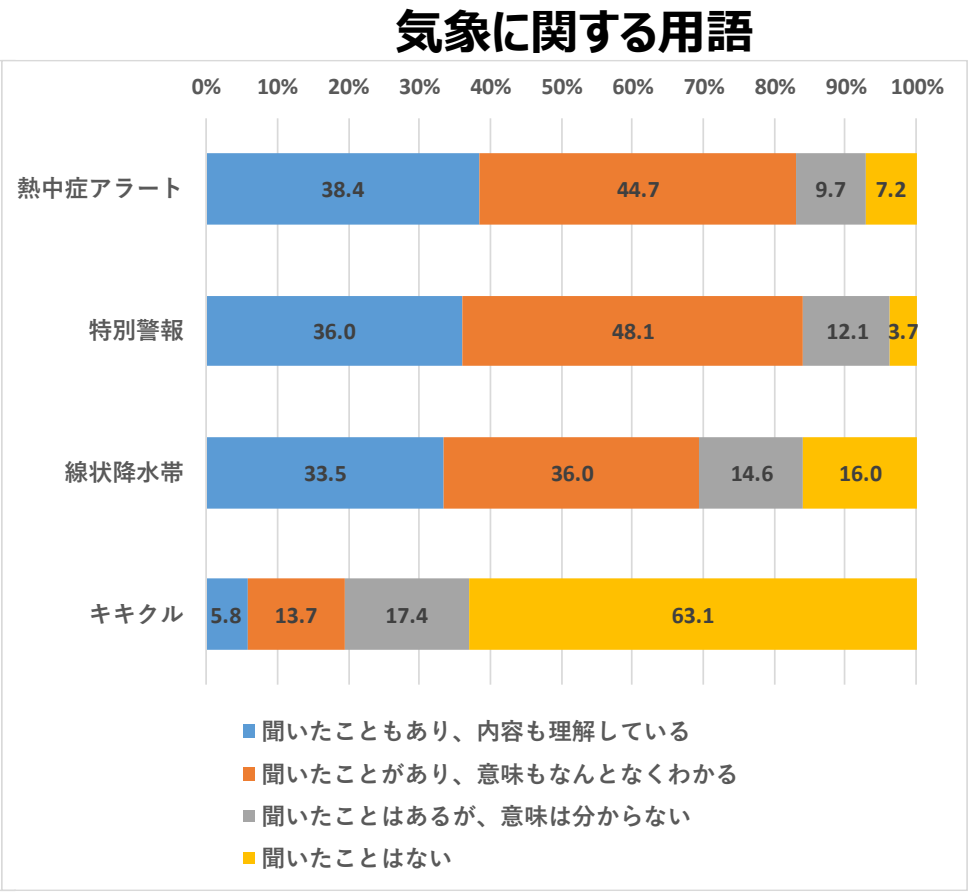
④上記の結果、ⅰ）コロナ災害と気象災害の類似性の確認
ⅱ）類似性が確認できた時、共通する特性を偏相関係数の並び等から考察する

調査概要

調査時期	2021.10
調査方法	web調査法
調査対象	全国　15歳～79歳の男女
割付	性別・年齢・都道府県
サンプル数	9,072

設問：コロナ、気象に関する用語の理解



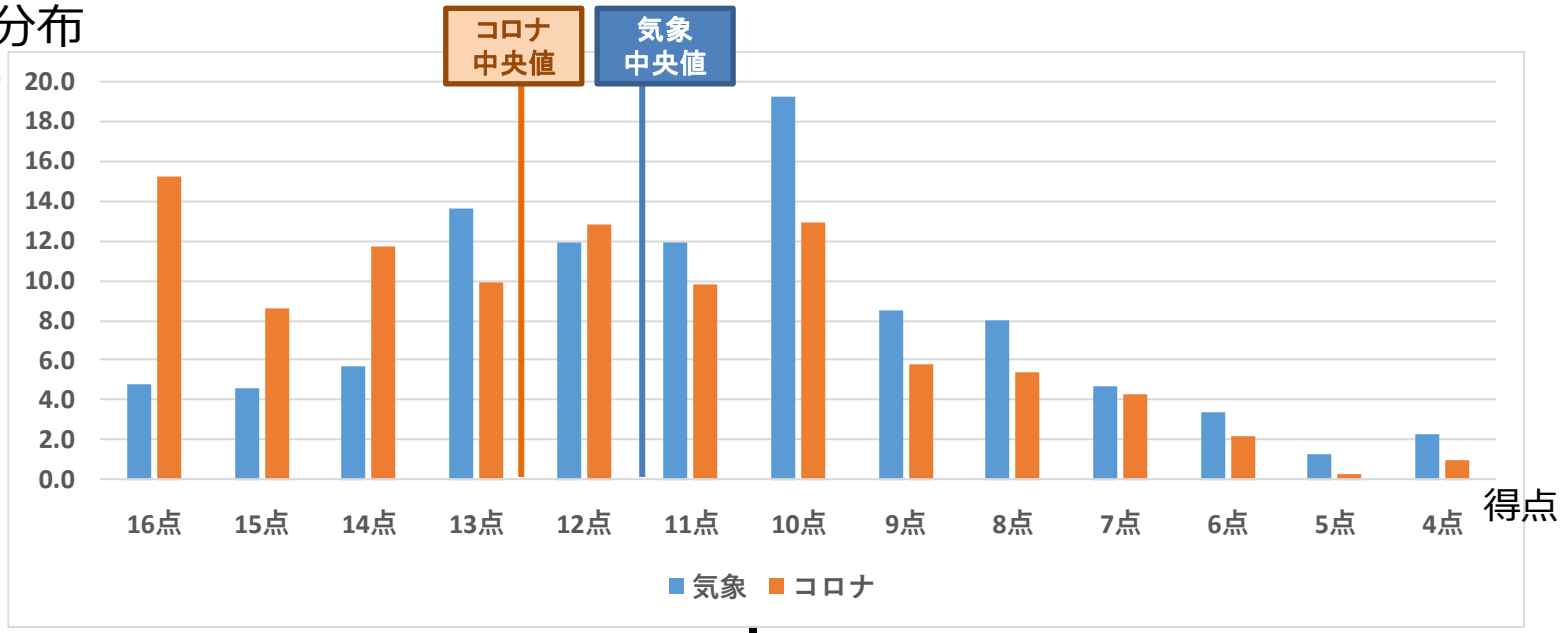


→認知・理解により、それぞれ得点化（16点～4点）

４点　聞いたこともあり、内容も理解している　　３点　聞いたことがあり、意味もなんとなくわかる
２点　聞いたことはあるが、意味は分からない　１点　聞いたことはない

コロナリテラシーと気象リテラシーの点数分布間の相関係数は0.52　一定の関係が見られる

◆点数分布



◆層別化

【2群】気象のみ高い 13%	**【1群】両方高い 28%**
【４群】両方低い 41%	**【3群】コロナのみ高い 19%**

→層別化した4つの群を目的変数として、数量化理論第Ⅱ類を用いて分析を実施

判別的中率 43.6%　相関比＝0.36

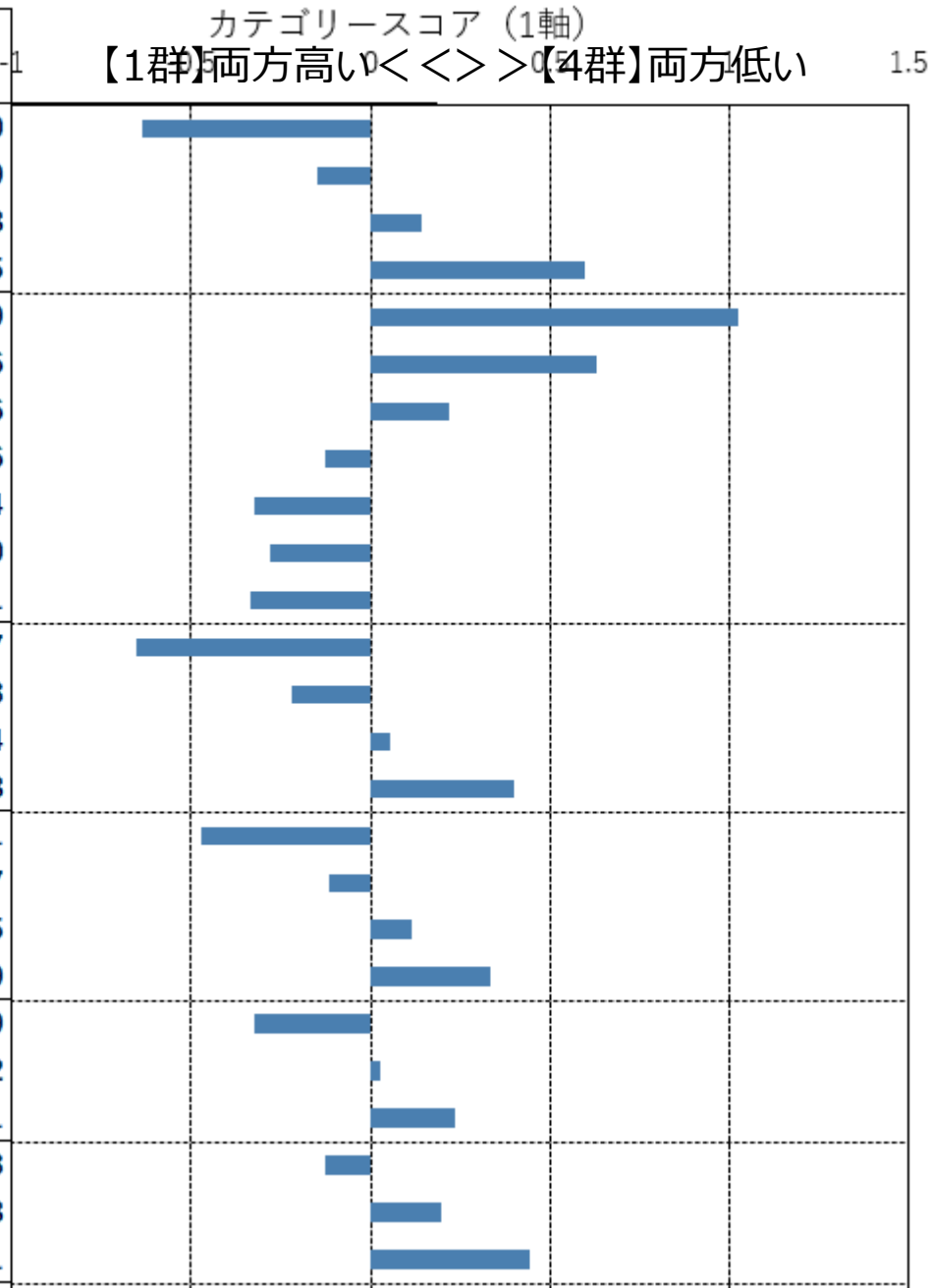
1軸は「1群両方高い」と「4群両方低い」を分ける軸として解釈

1軸

アイテム名	レンジ		偏相関係数	
ICT利活用	1.23	2位	0.15	1位
年代	1.36	1位	0.15	2位
経済的ゆとり	1.05	3位	0.10	3位
近所付き合い	0.80	4位	0.10	4位
情報欲求	0.56	7位	0.09	5位
テレビ頻度	0.57	6位	0.08	6位
結社	0.53	8位	0.07	7位
エリア	0.79	5位	0.07	8位
性	0.33	10位	0.06	9位
時間的ゆとり	0.38	9位	0.05	10位
都市規模	0.14	11位	0.02	11位
イノベータ	0.06	12位	0.01	12位

2－4 数量化理論第二類

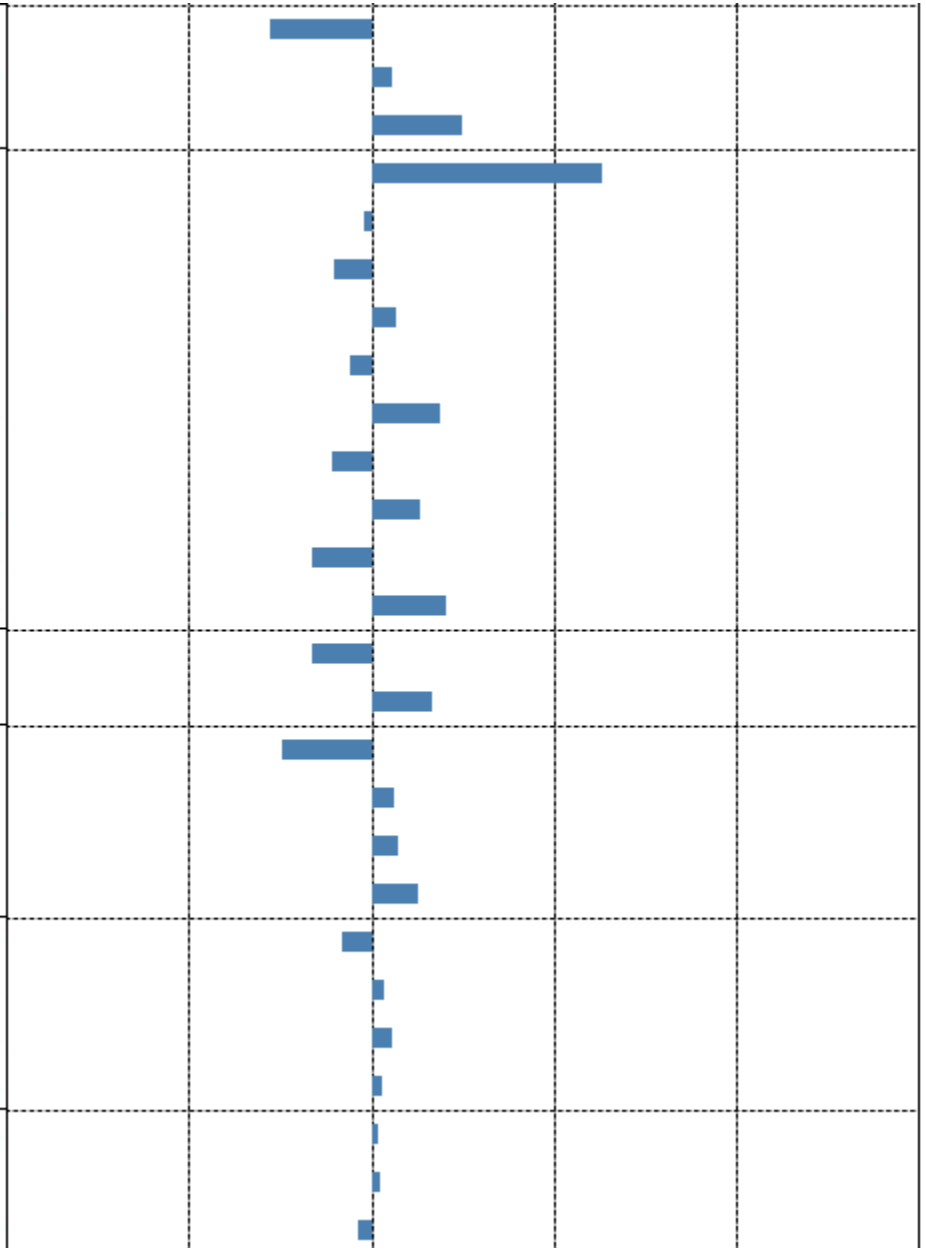
アイテム名	カテゴリー	n
ICT利活用	多い	1760
	やや多い	2579
	やや少ない	2908
	少ない	1825
年代	10代	539
	20代	1186
	30代	1306
	40代	1646
	50代	1504
	60代	1420
	70代	1471
経済的ゆとり	ある	457
	ある程度	3203
	あまり	3364
	ない	2048
近所付き合い	多い	1501
	やや多い	2747
	あまり	2705
	ない	2119
情報欲求	高い	2769
	普通	2892
	低い	3411
テレビ頻度	毎日１時間	6443
	毎日1時間	1428
	低い	1201



2－5 数量化理論第二類

【1群】両方高い＜＜＞＞【4群】両方低い

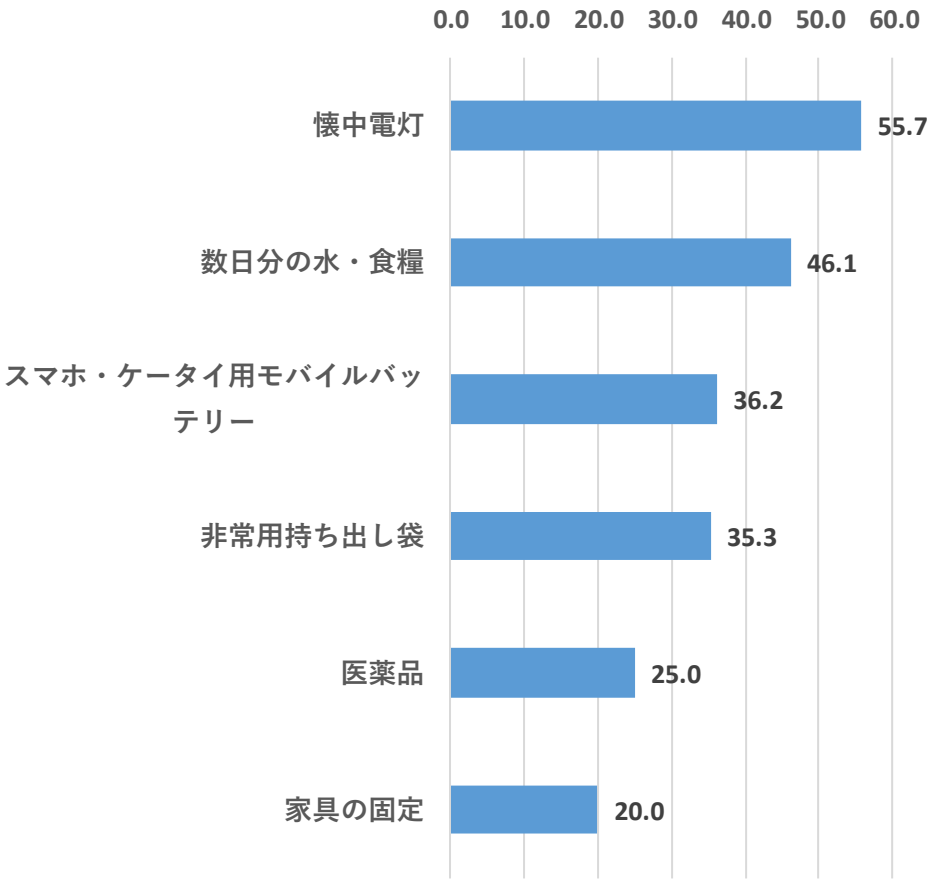
結社	結社	2731
	中間	4150
	非結社	2191
エリア	北海道	351
	東北	681
	関東	2951
	北陸甲信越	650
	東海	1032
	近畿	1444
	中国	567
	四国	328
	九州	954
	沖縄	114
性	男性	4515
	女性	4557
時間的ゆとり	ある	2075
	ある程度	3707
	あまり	2325
	ない	965
都市規模	政令	2799
	20万以上	2553
	10万以上	1404
	10万未満	2316
イノベータ	高い	2446
	普通	3627
	低い	2999



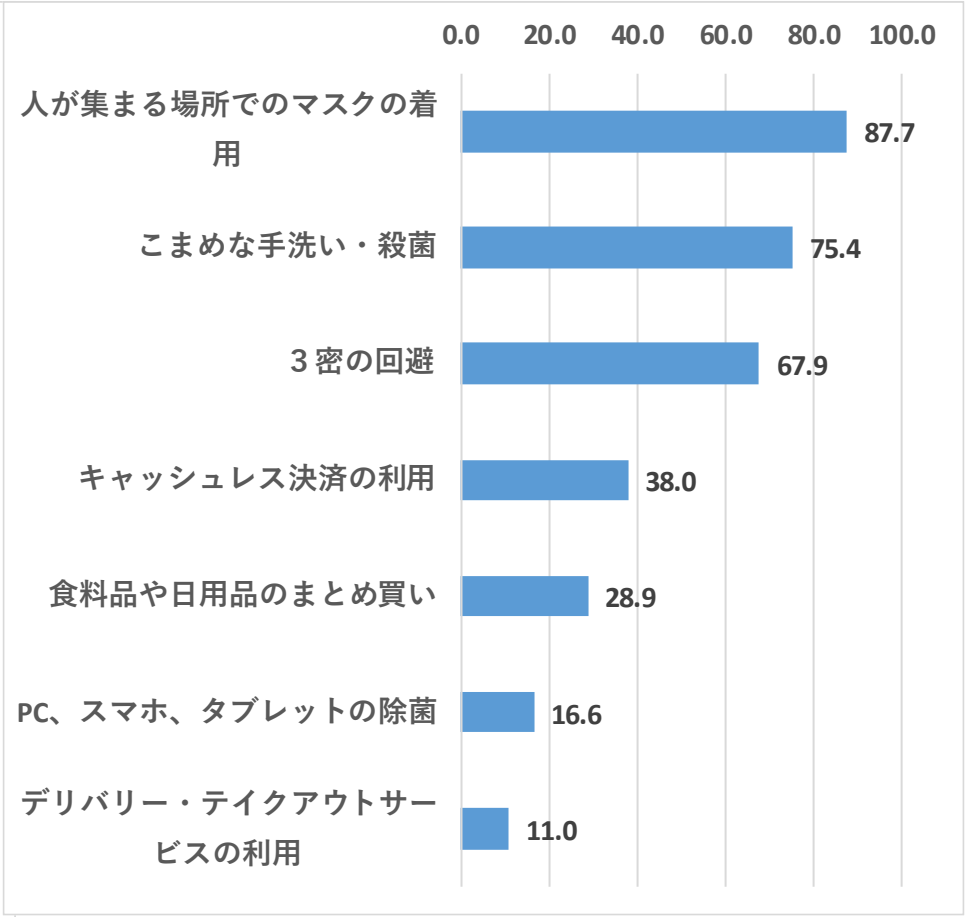
3-1　基礎集計　備え・対策

設問：災害に対する備え・対策

災害対策



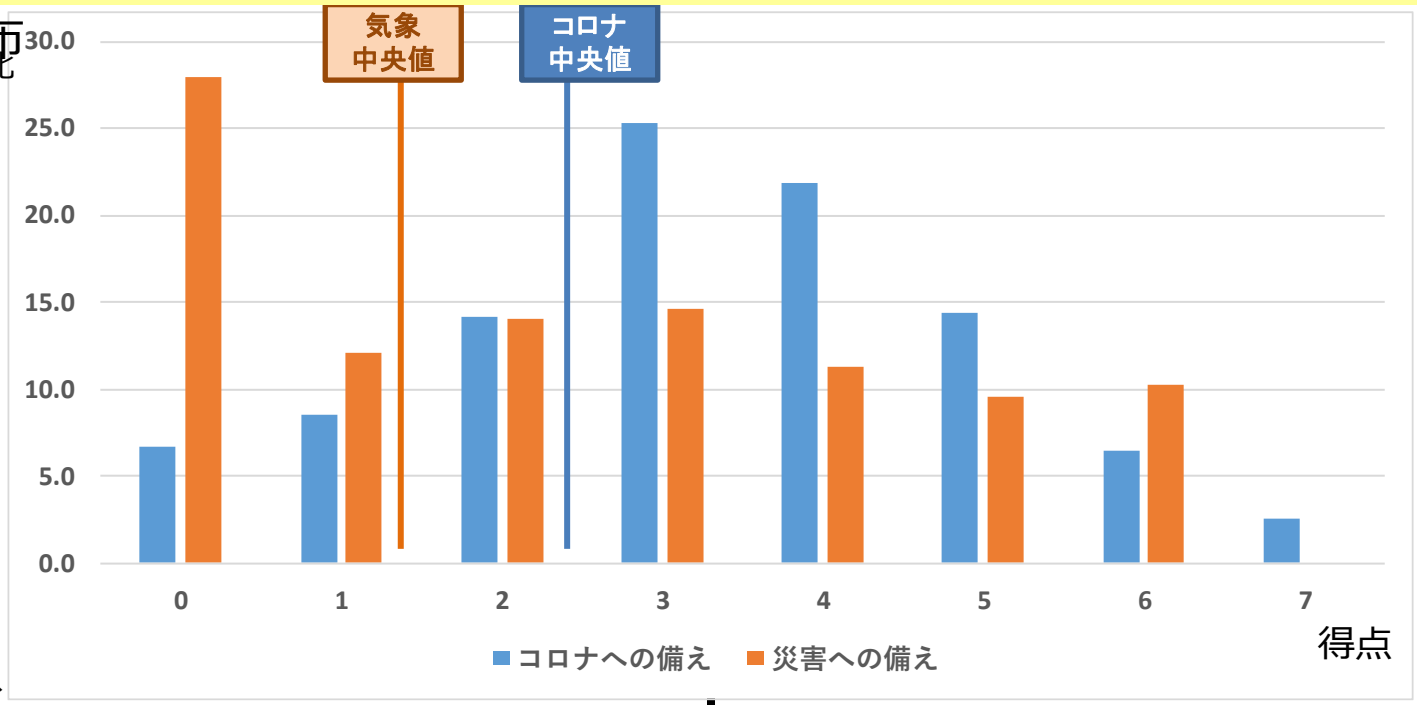
コロナ対策



→備え・対策をしている個数により、それぞれ得点化（０点～7点）

コロナ対策と気象対策の点数分布間の相関係数は0.47　一定の関係が見られる

◆点数分布



◆層別化

【2群】気象のみ多く実施　16%	【1群】両方多く実施　38%
【４群】両方少ない　29%	【3群】コロナのみ多く実施　17%

→層別化した4つの群を目的変数として、数量化理論第Ⅱ類を用いて分析を実施

判別的中率 44.5%　相関比＝0.39

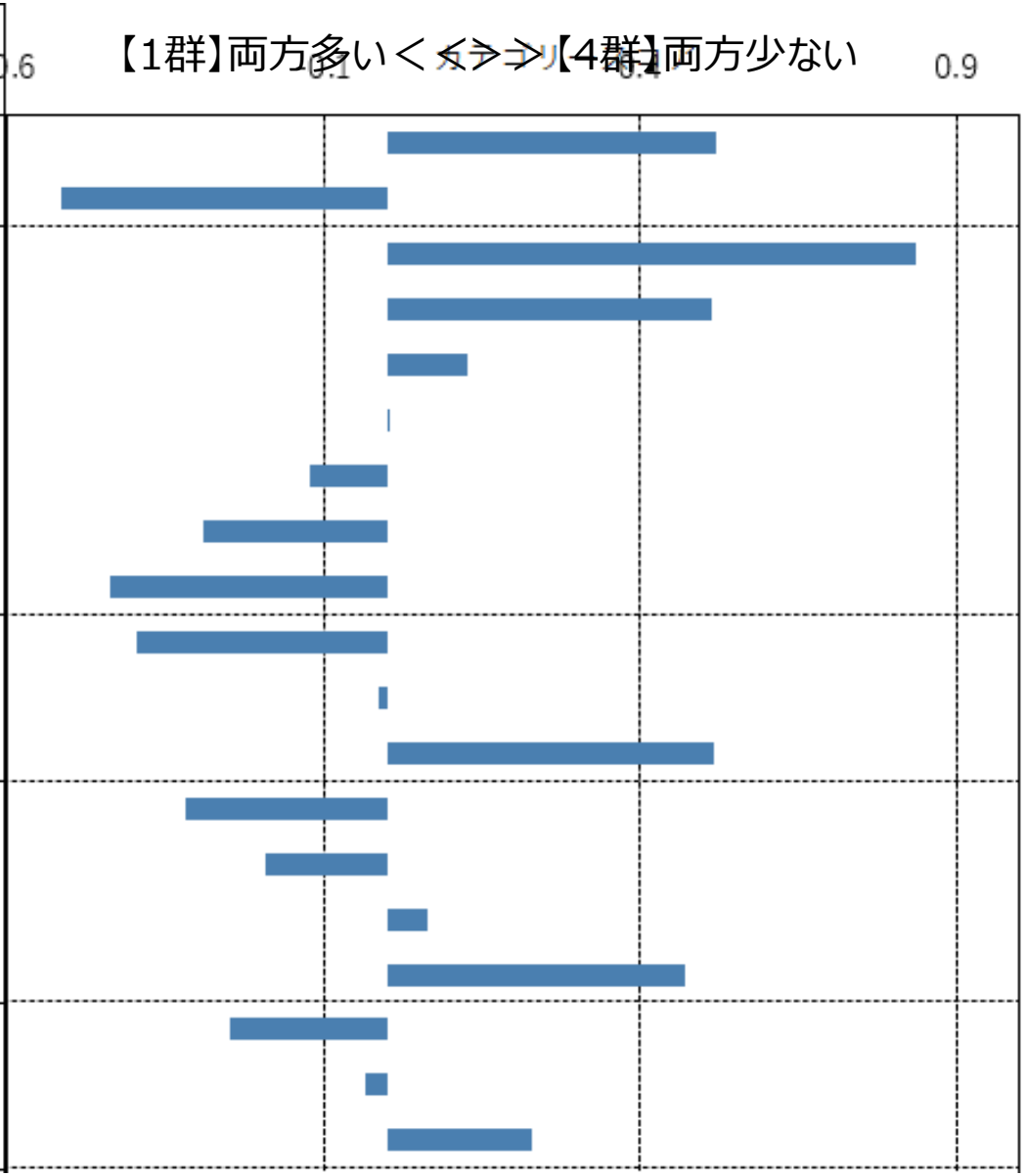
1軸は「1群両方高い」と「4群両方低い」を分ける軸として解釈

1軸

アイテム名	レンジ		偏相関係数	
性	1.035	2位	0.210	1位
年代	1.274	1位	0.133	2位
結社	0.912	3位	0.132	3位
ICT利活用	0.791	4位	0.113	4位
情報欲求	0.476	7位	0.079	5位
エリア	0.579	5位	0.074	6位
経済的ゆとり	0.477	6位	0.059	8位
時間的ゆとり	0.460	8位	0.048	10位
イノベータ	0.294	11位	0.046	11位
都市規模	0.343	10位	0.057	9位
近所付き合い	0.457	9位	0.068	7位
テレビ頻度	0.197	12位	0.027	12位

3-4 数量化理論第二類

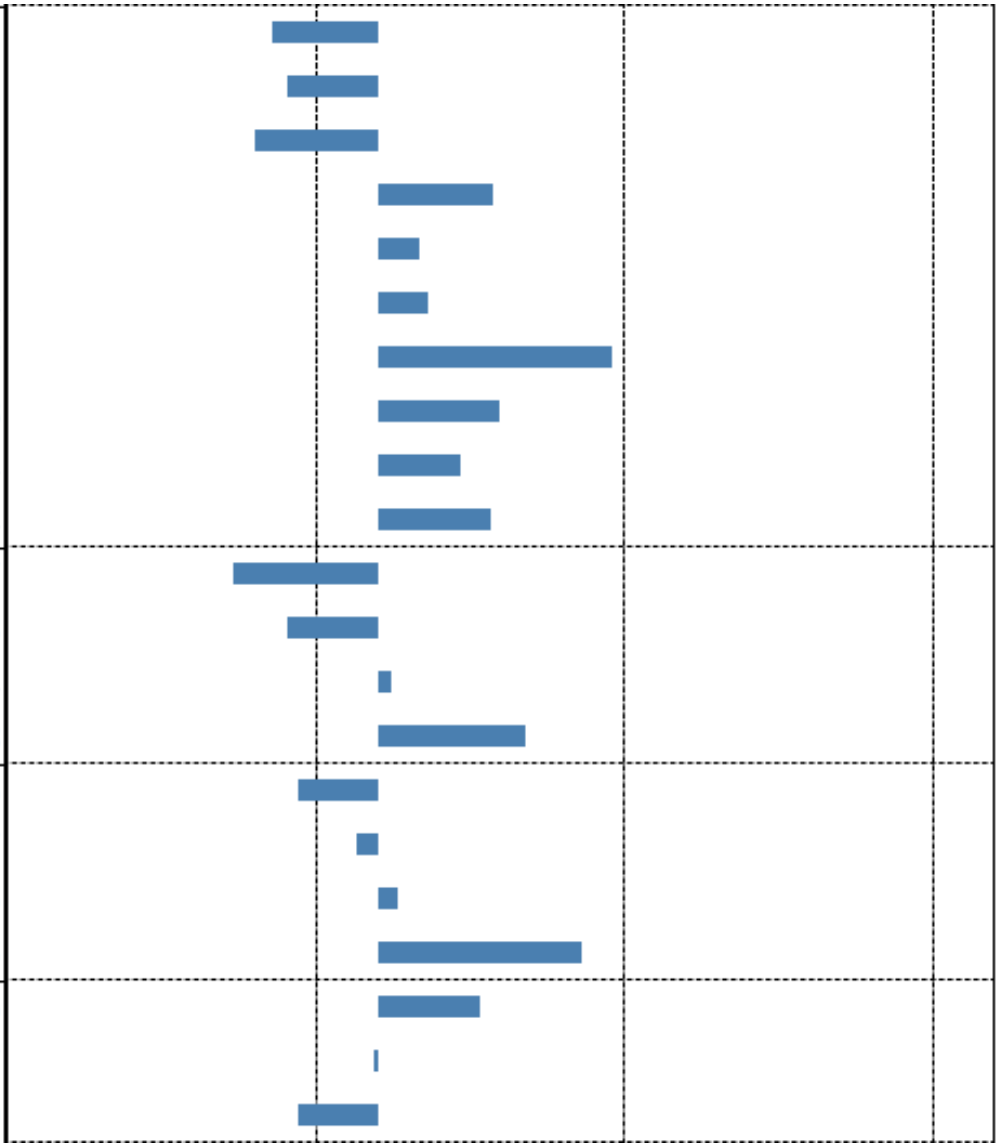
アイテム名	カテゴリー	n
性	男性	4515
	女性	4557
年代	10代	539
	20代	1186
	30代	1306
	40代	1646
	50代	1504
	60代	1420
	70代	1471
結社	結社	2731
	中間	4150
	非結社	2191
ICT利活用	多い	1760
	やや多い	2579
	やや少ない	2908
	少ない	1825
情報欲求	高い	2769
	普通	2892
	低い	3411



3-5 数量化理論第二類

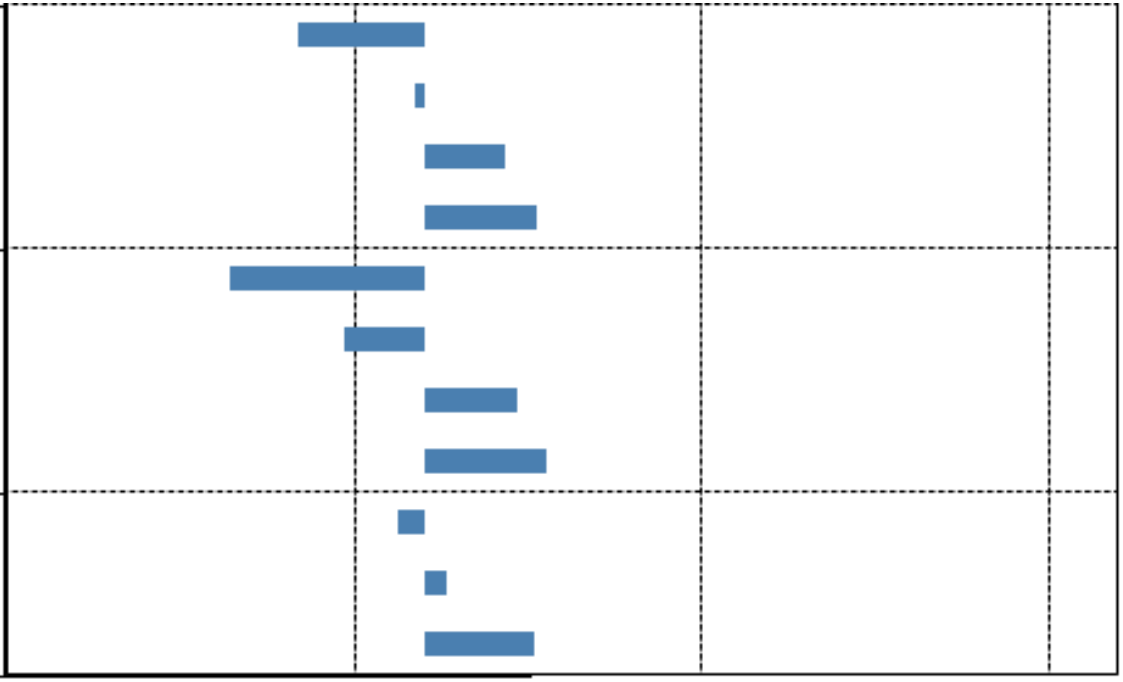
【1群】両方多い＜＜＞＞【4群】両方少ない

エリア	北海道	351
	東北	681
	関東	2951
	北陸甲信越	650
	東海	1032
	近畿	1444
	中国	567
	四国	328
	九州	954
	沖縄	114
経済的ゆとり	ある	457
	ある程度	3203
	あまり	3364
	ない	2048
時間的ゆとり	ある	2075
	ある程度	3707
	あまり	2325
	ない	965
イノベータ	高い	2446
	普通	3627
	低い	2999



【1群】両方多い＜＜＞＞【4群】両方少ない

都市規模	政令	2799
	20万以上	2553
	10万以上	1404
	10万未満	2316
近所付き合い	多い	1501
	やや多い	2747
	あまり	2705
	ない	2119
テレビ頻度	毎日１時間	6443
	毎日1時間	1428
	少ない	1201



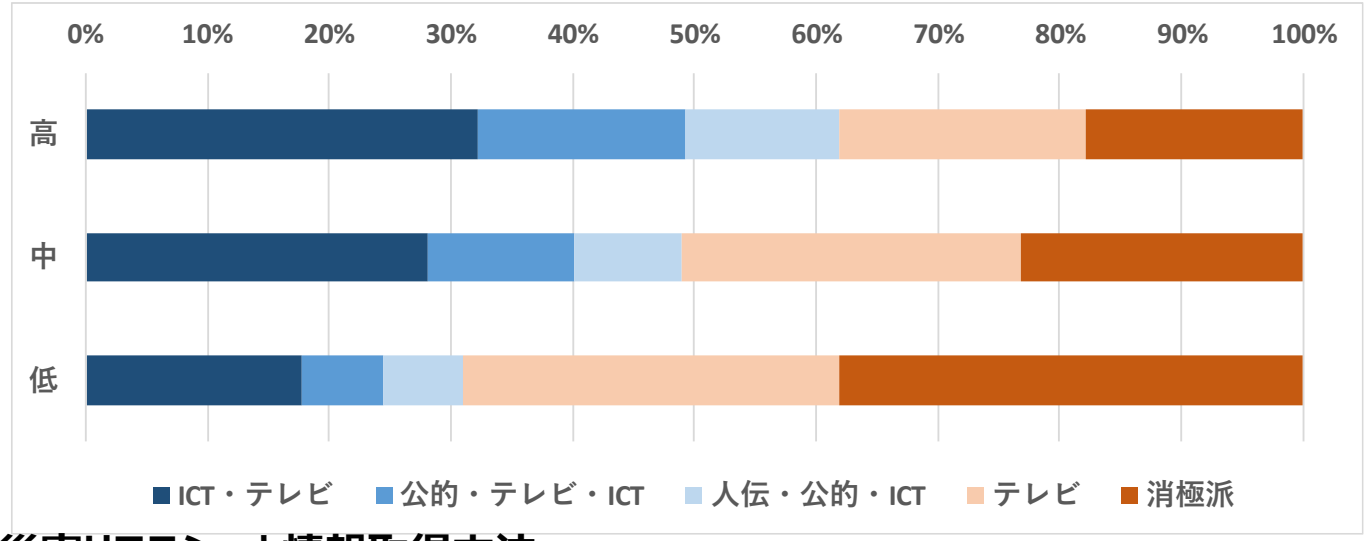
4-1　数量化理論第二類のまとめ

		リテラシー	備え・対策
属性	年代	若年層	若年層
	性別		男性
	都市規模		
ライフスタイル	イノベータ得点		
	情報欲求志向	低い	低い
	結社傾向		非結社
	経済的ゆとり	ない	
	近所つきあい	少ない	
ICT/メディア	ICT利用頻度	少ない	少ない
	テレビ視聴頻度		

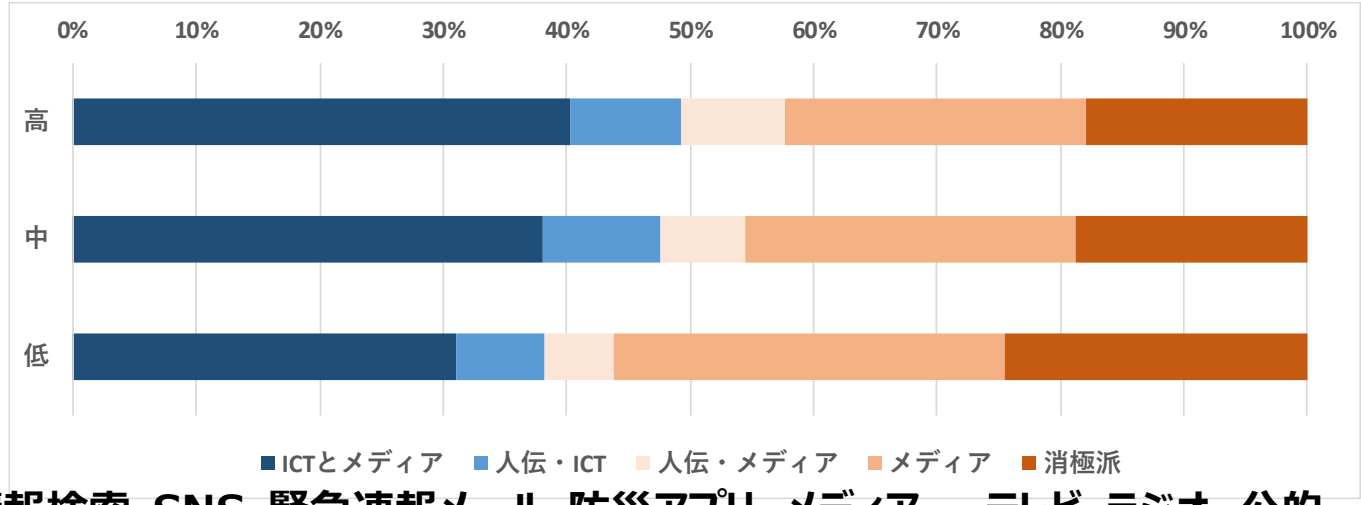
□リテラシー×情報取得方法

⇒リテラシーが低い層は、情報取得が「メディアのみ」「単体」が多い傾向

気象災害リテラシーと情報取得方法



コロナ災害リテラシーと情報取得方法



ICT･･･情報検索･SNS･緊急速報メール･防災アプリ　メディア･･･テレビ･ラジオ　公的･･防災無線･広報車

まとめ

【コロナ・気象災害の類似性】
リテラシー、備え・対策を見る限り、一定の相関がみられた

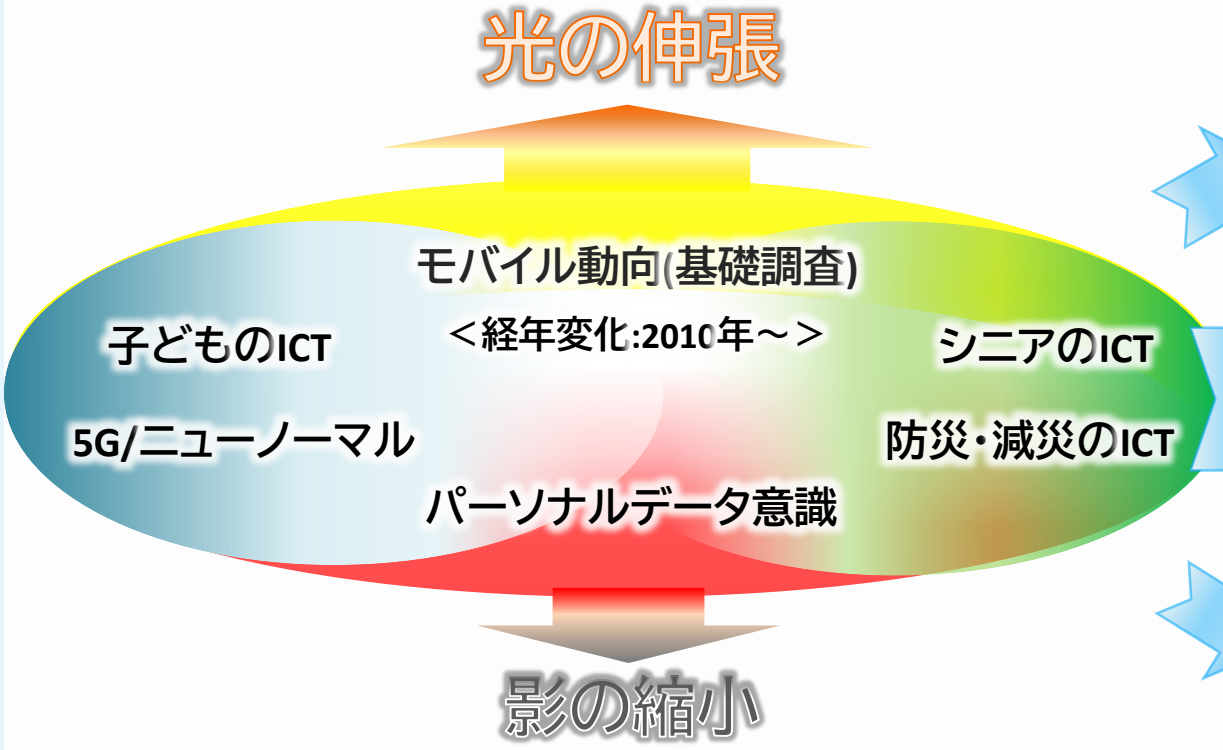
【低リテラシー層、備え・対策が少ない人の特性】
若年層、普段のICT利活用が少ない、情報欲求志向が低い
（イノベータ得点やテレビ視聴頻度とは関係性があまり見られない）

【コロナ・気象災害に関する情報取得方法】
低リテラシー層、備え・対策が少ない人はメディア単体若しくは
消極的な取得

◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施



情報発信

【研究成果の発信】

＜モバイル社会白書2020＞



(書籍・電子書籍)

連携

＜モバイル社会研究所HP＞

https://www.moba-ken.jp



(レポート発表)

連携

＜各種学会発表＞

メディア掲載・データ引用・意見交換会等